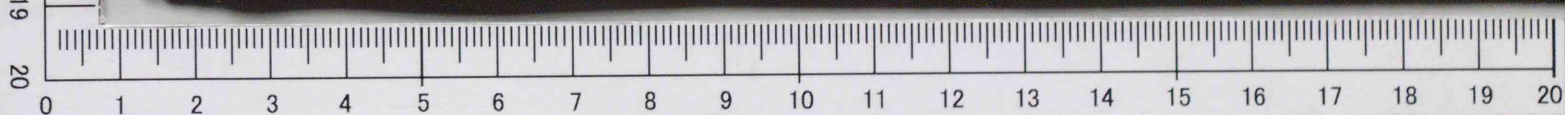
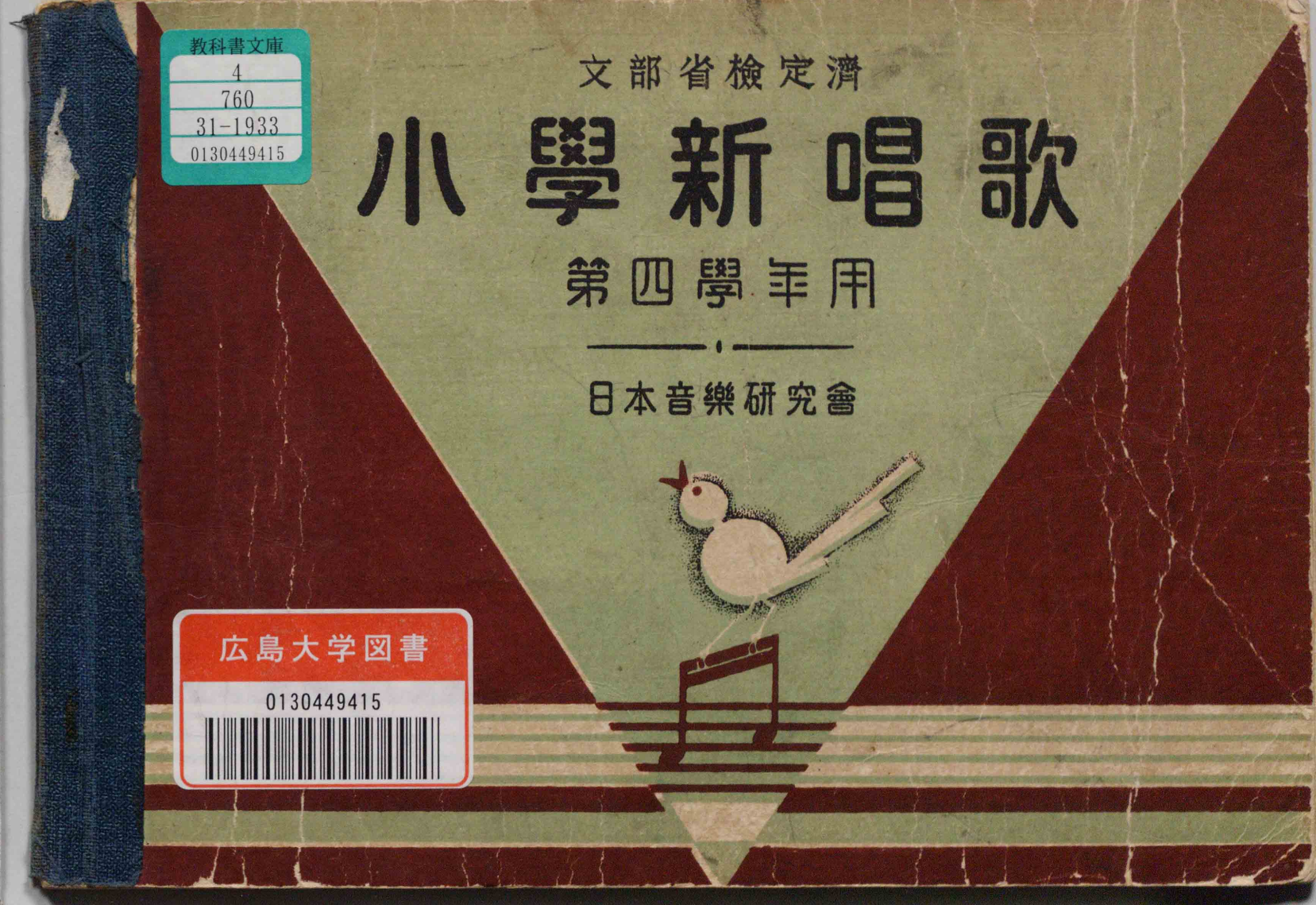
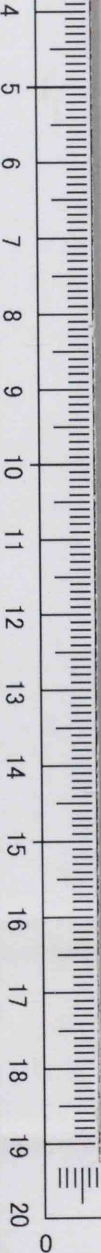
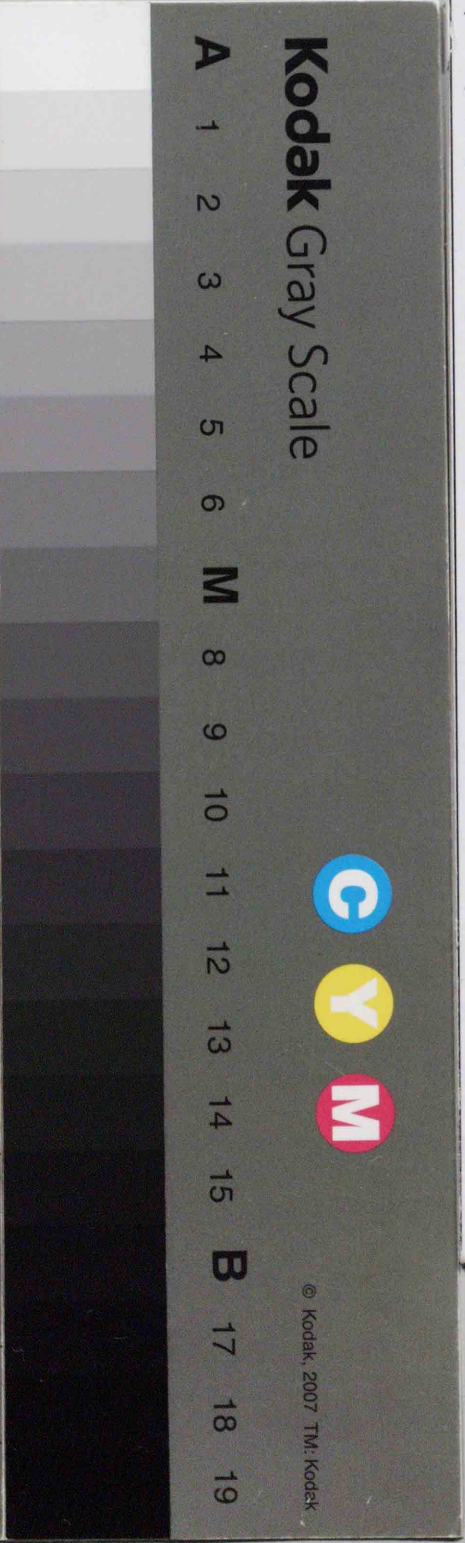
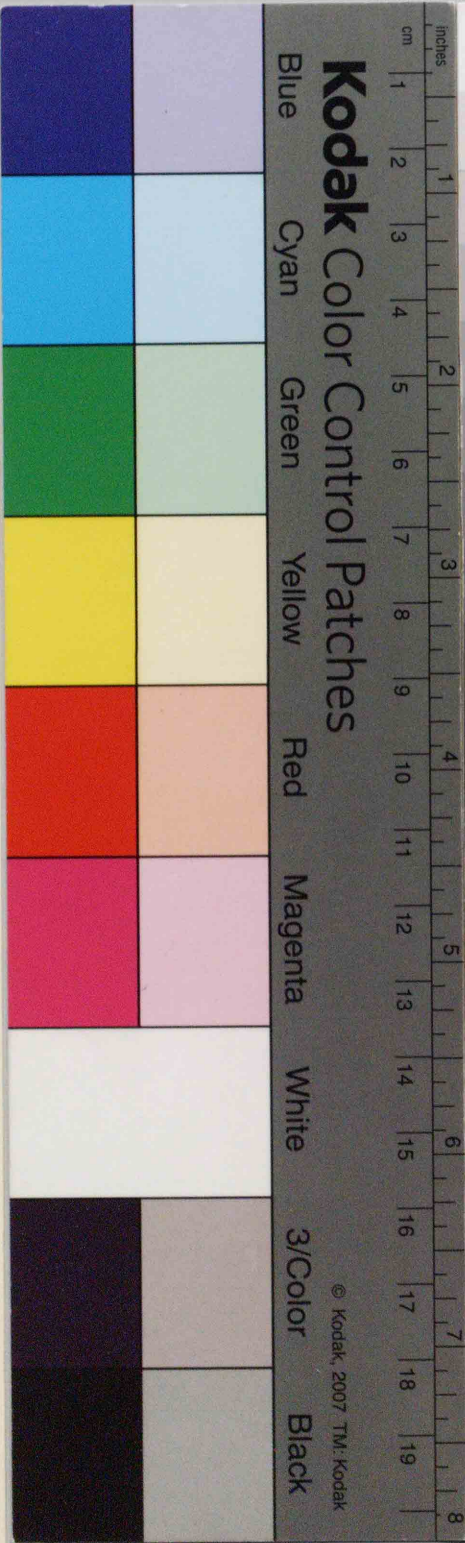


40343

教科書文庫

4
760
31-1933
01304 49415





中央図書館

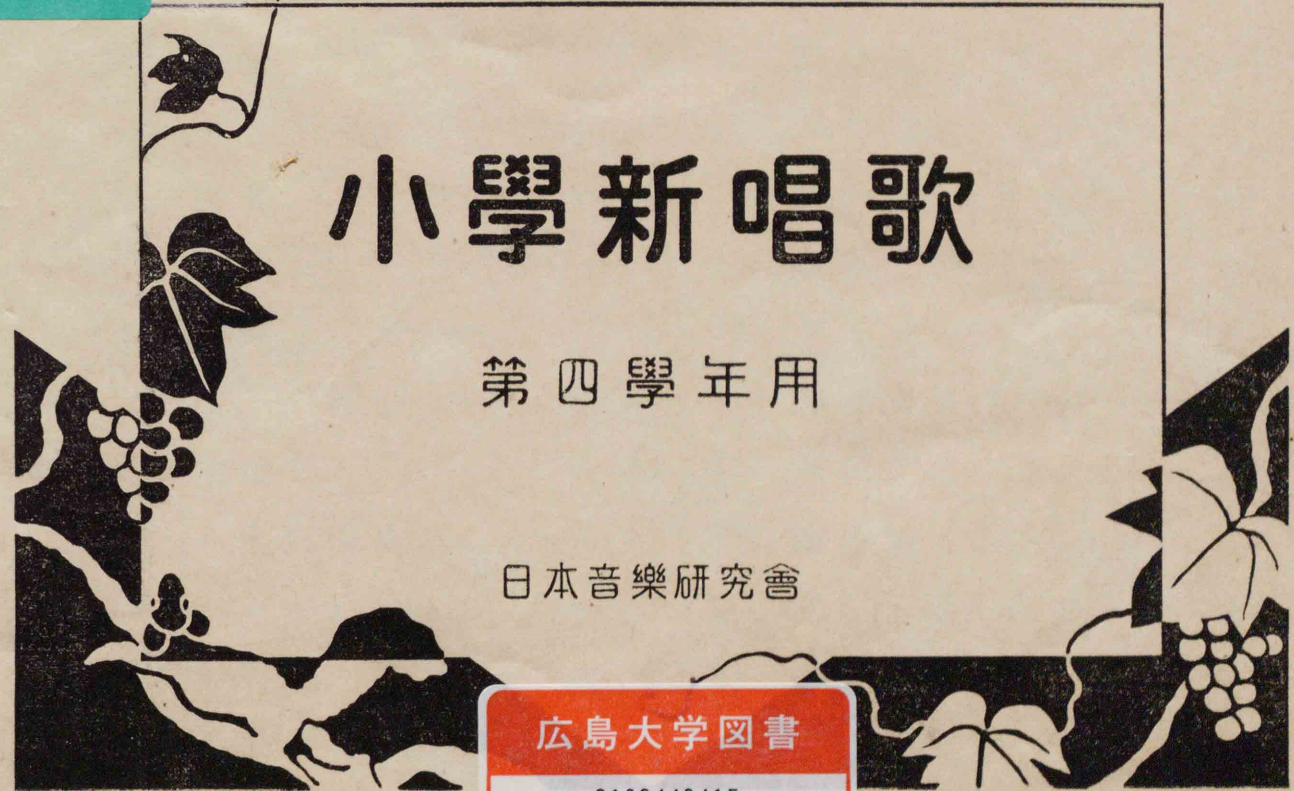
教科書文庫
4
760
31-1933
0130449415

文部省検定済  
昭和八年九月二十七日 尋常小學校唱歌科用

# 小學新唱歌

第四學年用

日本音樂研究會



広島大学図書  
0130449415

広島大学図書  
0130449415

600



目 次

1. 春風 .....	1	12. 鈴の音 .....	27
2. シヤボン玉 .....	3	13. 飛行船 .....	29
3. 世界 .....	5	14. 小菊 .....	31
4. 鶏の聲 .....	7	15. 羽衣 .....	33
5. 学校さして .....	9	16. スキー .....	35
6. ばらの花 .....	11	17. 母のなさけ .....	37
7. 田植 .....	13	18. 扇のまと .....	39
8. 一太郎やあい .....	15	19. 銀の笛 .....	41
9. つりがねぐさ .....	19	20. 鬼ごと遊 .....	43
10. かちや .....	21	21. 師の恩 .....	45
11. 出船 .....	25	22. 卒業生を送る歌 .....	47



# 春 風

♩ = 116.  
mp

1. フケヨハルカゼ テフーテフーノ  
2. ふけよはるかぜ まごちかく

シヅカニネムル ソノユメヲ  
ふみよむわれを おとづれて

p

サマサヌホドニ ソヨソヨト  
ゆめのおとぎのはなぞのへ

mf

ハナヨハナハ フケヨハルカゼ  
さそはぬほごに ふけよはるかぜ

# 一 春 風

一  
吹けよ、春風。  
てふてふの  
静かに眠る  
その夢を、  
さまざま程に  
そよそよと、  
花より花へ  
吹けよ、春風。  
吹けよ、春風。

二  
窓ちかく  
書よむ我を  
おとづれて、  
夢のお伽の  
花園へ  
誘はぬ程に  
吹けよ、春風。



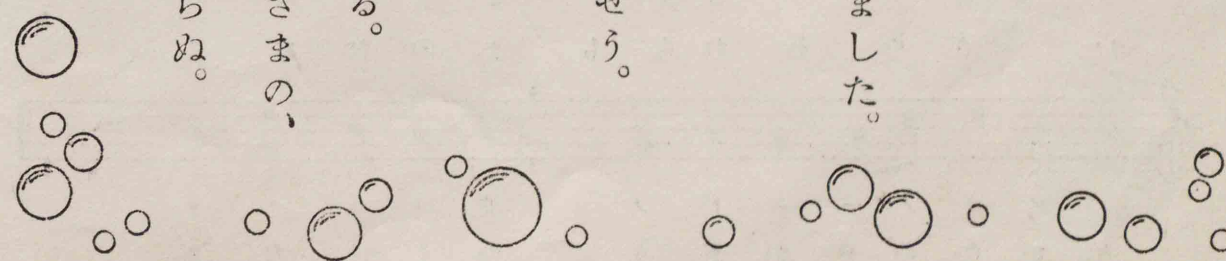
# シヤボン玉

$\text{♩} = 100.$   
*mp*  
 ダレカノダレカノシヤボンダマ  
 ドコマデドコマデシヤボンダマ  
*mf*  
 マルクフクレテトビマシタ  
 カゼニフカレテトブデセウ  
 キレイナキレイナシヤボンダマ  
 キーンニヒカッテナゼキエル  
 オソラノオソラノオヒサマーノ

*p*  
 オクビーカザリニナゼナラヌ

だれかの、だれかの  
 シヤボン玉、  
 まるくふくれて 飛びました。  
 どこまで、どこまで、  
 シヤボン玉、  
 風に吹かれて、飛ぶでせう。  
 きれいな、きれいな  
 シヤボン玉、  
 金に光つて なぜきえる。  
 お空の、お空の お日さまの、  
 お首かざりに なぜならぬ。

## ニシヤボン玉





# 世界

*mp* ♩ = 112.

1. セカイハヒロシクニオホシ  
 2. ちきうをかこむうみどりく

*mf*

ロクジフヨコクアルウチニ  
 さかえにさかえひらけゆく

*f*

ワガテイコクノミサカエハ  
 いざやわれらもよのため

*mf*

イツツノユビノウチニアリ  
 ちからのかぎりつくしなん

## 三 世界

一 世界は廣し、

國多し。

六十餘國ある中に、

我が帝國の御榮は、

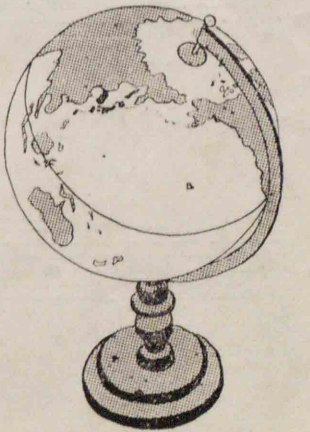
五つの指のうちにあり。

二 地球を圍む海と陸、

榮えに榮え開けゆく。

いざや、われらも世の爲に

力のかぎりつくしなん。





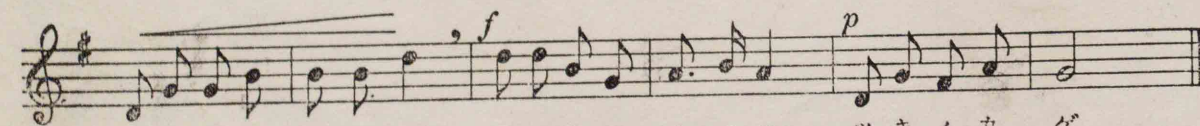
# 鶏の聲



1. ネ グ ラ ニ ヒ ビ ク ト リ ノ コ エ  
 2. た の し い は る の あ さ が す み



コツケツコ コツケツコ ヒガシノソラガ  
 こつけつこ こつけつこ にはどりないて



ホノボノアケタカスカニノコルツキノカゲ  
 のどかにあけたあさひはのぼるはなののに

# 四鶏の聲

一 ねぐらにひびく

鶏の聲

こつけつこ こつけつこ。

東の空が ほのぼの あけた。

かすかに 残る

月の影。

二 たのしい春の

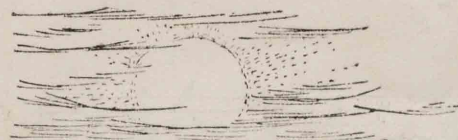
朝がすみ、

こつけつこ こつけつこ

鶏ニヒトリないて のどかに あけた。

朝日アサヒは のぼる

花の野はなののに。







五 學校さして

一 東の空が あかるくなつて、

庭の小笹に 朝露光る。

のきに囀る 雀の聲も、

今朝はたのしい よい天氣。

二 朝日をあびて 涼風うけて、

友とたのしく 語らひながら、

丘の林の 學校さして、

行くもうれしい この小徑。

學校さして

♩ = 96.  
mp

1. ヒ ガ シ ノ ソ ラ ガ      ア カ ル ク ナ ッ テ  
2. あ さ ひ を あ び て      す す か せ う け て

ニ ハ ノ      フ ザ サ ニ      ア サ ツ ユ ヒ カ ル  
ど も ど      た の し く      か た ら ひ な が ら

mf

ノ キ ニ      サ ヘ ヅ ル      ス ズ メ ノ コ エ モ  
を か の      は や し の      が く か う      さ して

mp

ケ サ ハ      タ ノ シ イ      ヨ イ テ      ン キ  
ゆ く も      う れ し い      こ の こ み ち



# ばらの花

♩ = 92.  
mf

1. ホ ガ ラ カ ナ ア サ ノ メ ザ メ ノ コ コ ロ ノ ヤウ -  
2. よ ろ こ び の よ る の ま と め の ゑ が ほ の やう -

mp p

ニ サ イ タ サ イ タ シ ロ イ バ ラ キ  
に さ い た さ い た あ か い ば ら き

mf

ヨ ク ケ ダ カ ク ウ ツ - ク シ ク サ  
よ く あ か る く は な - や か に さ

mp

イ タ サ イ タ カ メ ノ バ ラ  
い た さ い た そ の の ば ら

## 六 ばらの花

一 ほからかな

朝あさのめざめの心こころのやうに、  
咲さいた咲さいた、白しろいばら。

淨きよく

氣き高たかく

うつくしく、

咲さいた咲さいた、瓶びんのばら。

二 よろこびの

夜よるのまとめの ゑがほのやうに、  
咲さいた咲さいた、赤あかいばら。

清きよく

明あかるく

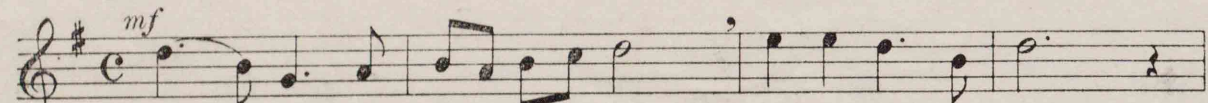
はなやかに、

咲さいた咲さいた、園おんのばら。



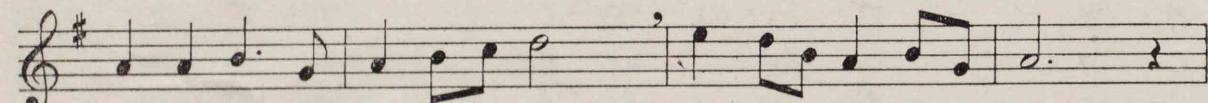
# 田 植

♩ = 112.



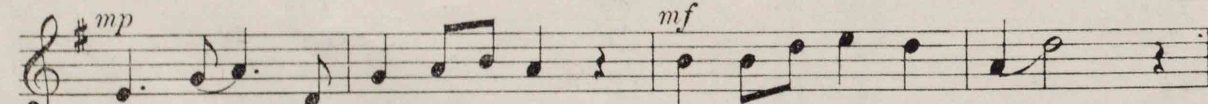
1. トホ - キ ヤ マ - ヤ - マ ユ キ モ キ エ

2. な ら び た だ - し - く う ゑ て ゆ く



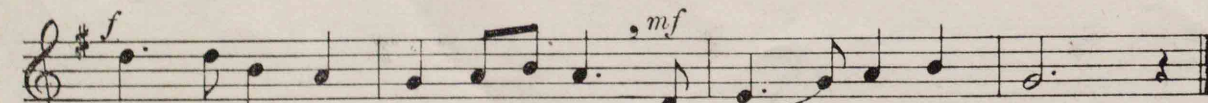
ミ ズ タ ニ ナ ラ - プ ス ゲ - ノ カ - サ

み どり も あ は - き わ か - な へ - に



ウ タ フ - タ ウ エ - ノ ウ タ - ニ ツ レ -

や どり は ず ゑ - の つ ゆ - み れ ば -



タ ノ モ ノ ミ ド - リ マ サ - リ ユ ク

み の り の あ き - の た の - も し や

# 七 田 植

一 遠 山 山 雪 も 消 え、

水 田 に 並 ぶ 菅 の 笠、

歌 ふ 田 植 の 歌 に つ れ、

田 の 面 の み どり ま さ り ゆ く。

二 並 び 正 し く 植 ゑ て ゆ く、

み どり も 淡 き 若 苗 に、

や どり 葉 末 の つ ゆ 見 れ ば、

み の り の 秋 の た の も し や。



## 一太郎やあい



1. ニチロノ エキーノ ゴヨウー ー セン ー  
 2. みふねは きしーを はなーれ たり ー  
 3. イへーノ コトヲバ アーンズルナ ー  
 4. ごりーの やまみち ふみーこ え て ー



- ツハモノ アマータ ウチーノ セーテ ー  
 きしより よぶーは おいーし はーは ー  
 オテンシ サマーノ オーンタメーニ ー  
 このひと こどーを つげーんどーて ー



- イマーヤ ミナトヲ イデー ンートース ー  
 ふねーの うへに て つつーをーあーげ ー  
 ミクニノ タメーニ ックーセーヨート ー  
 おくーり こしはは いでーゆーくーこ ー



- ミフーネ メガケテ ヨブーハ ターレ ー  
 こたふる そのーこ いちーた らうーー ー  
 マコート コモレル ハハーノ コーエ ー  
 そのなは とはーに くちーざ らーん ー





八 一太郎やあい

一 日露の役の 御用船、

兵士あまた うちのせて、

今や港を 出でんとす。

御船めがけて 呼ぶは誰。

二 御船は岸を 離れたり、

岸より呼ぶは 老いし母、

船の上にて 銃をあげ、

答ふるその子 一太郎。

三「家のことをば 案ずるな、

お天子様の 御ために、

御國のために つくせよ。」と

まことこもれる 母の聲。

四 五里の山道 踏越えて、

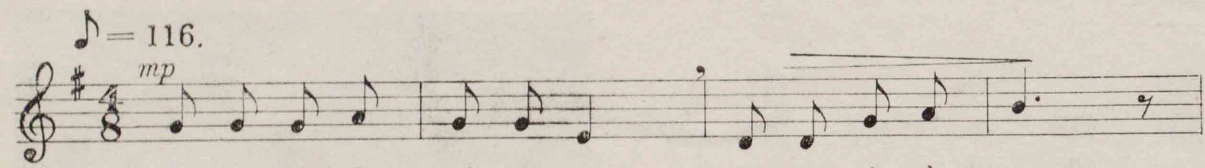
この一言を つげんとて、

送り來し母 いでゆく子。

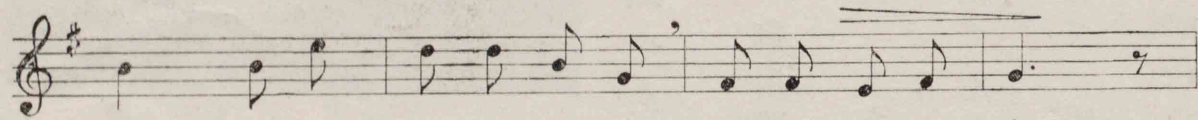
その名はとほに 朽ちざらん。



# つりがねぐさ



1. ツリガネ グサノ アノカネ ハ  
2. つりがね ぐさの あのかね は



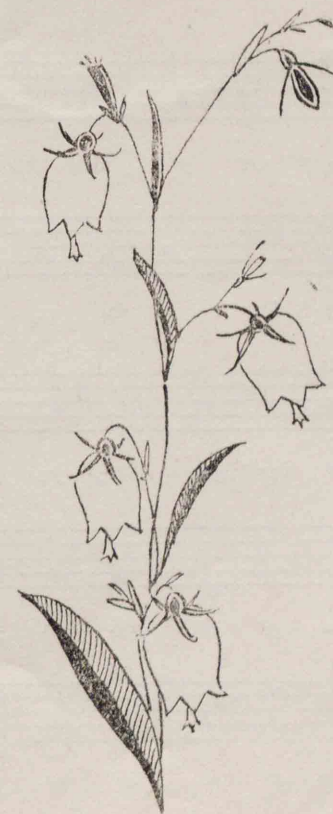
タ レ ガ ックノカ チヒサナカネ  
ほ しの こびとが そつとき て



ウスムラ サ一キノ チヒサナカネ  
つ一ゆを こぼして ならすかね

九つりがねぐさ

一 つりがねぐさの あの鐘は、  
たれがつくのか、小さな鐘  
うすむらさきの



小さな鐘。

二 つりがねぐさの あの鐘は、

星の小人が そつと来て

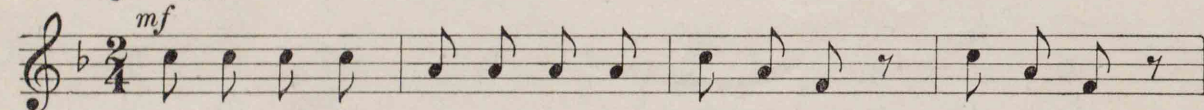
つゆをこぼして

鳴らす鐘。

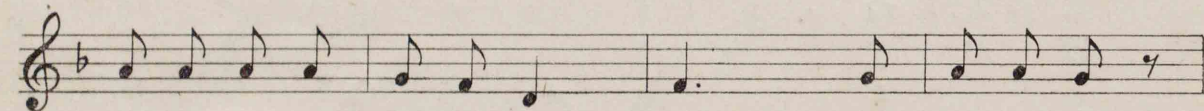


## か ぢ や

♩ = 96.

*mf*

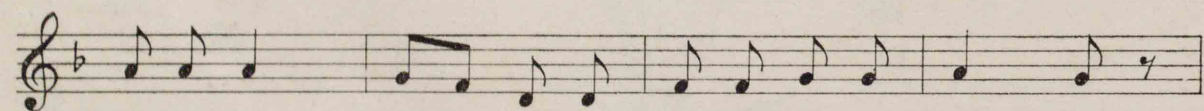
ト ナ リ ノ カ チ ヤ デ トン テン カン トン テン カン



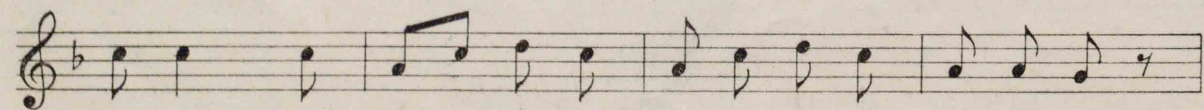
カ チ ヤ ノ チ イ サン セ ガ タ カ イ



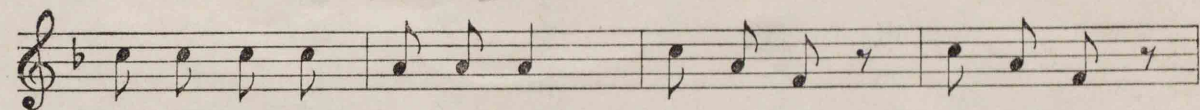
コ ハ イ メ フ シ テ トン テン カン トン テン カン



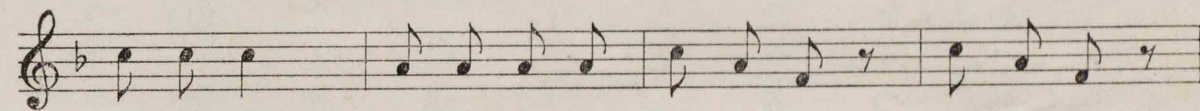
コ ハ イ ヤ ウ ー ダ ガ カ チ ヤ ノ チ イ サン



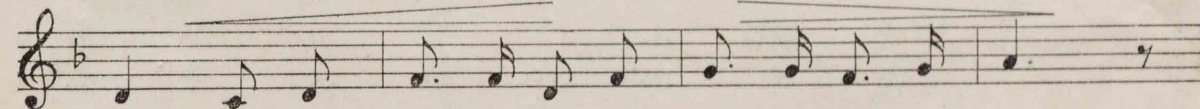
イ タ ツ テ シ ヤ ウ ー チ キ キ ダ テ ガ ヤ サ シ



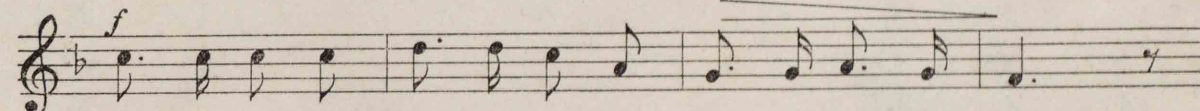
マ イ ア サ ハ ヤ ク トン テン カン トン テン カン



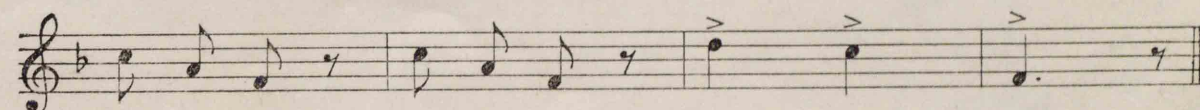
デ シ フ ア ヒ テ ニ トン テン カン トン テン カン



カ マ フ キ タ ヘ ル ク ハ フ ウ ツ



ク ル マ ノ フ フ ウ ツ ナ タ フ ウ ツ



トン テン カン トン テン カン トン テン カン



一〇 かぢや

となりのかぢやで

とんてんかん

とんてんかん、

かぢやのぢいさん

背が高い。

こはい目をして、

とんてんかん

とんてんかん、



こはいやうだが かぢやのぢいさん

いたつて正直、氣立がやさしい。

毎朝早く、とんてんかん

とんてんかん、

弟子を相手に、とんてんかん

とんてんかん

鎌をきたへる、鋏をうつ、

車の輪をうつ、なたをうつ。

とんてんかん とんてんかん

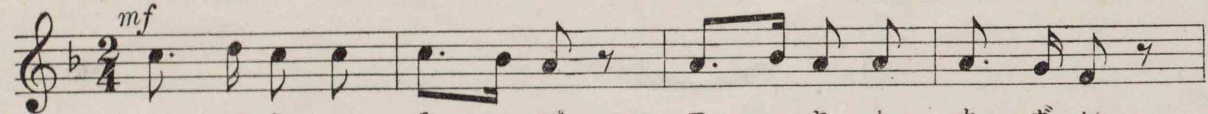
とんてんかん。



# 出 船

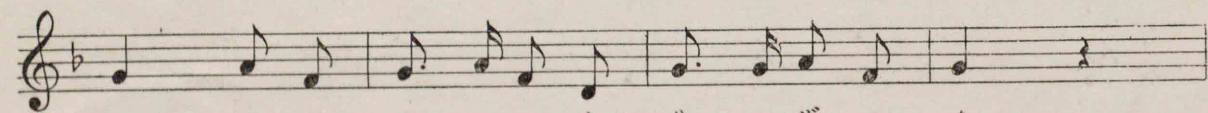
♩ = 84.

*mf*



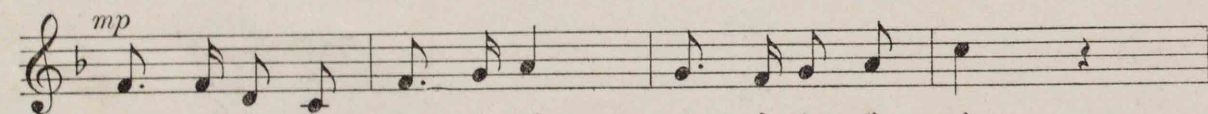
1. ゴ シ キ ノ テ ー プ      ア ー ヤ ト ナ ガ レ

2. な ご り の テ ー プ      い ー つ か き れ て



ユ ク ト オ ク ル ト サ マ ザ マ ノ

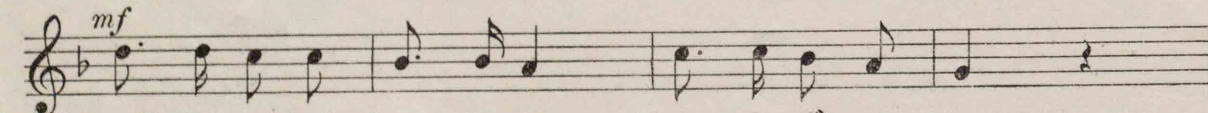
デ ッ キ の ひ ー と の お も か げ も



*mp*

コ コ ロ ラ ッ ナ グ      フ ネ ト リ ク

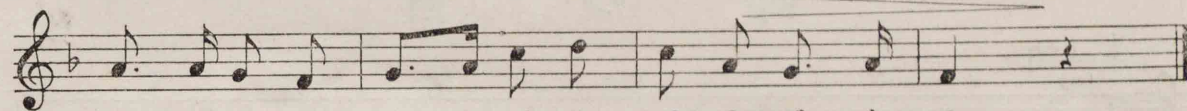
お ぼ ろ に へ だ つ      り く と ふ ね



*mf*

ナ ゴ リ モ イ マ ダ      ッ キ ザ ル ニ

そ の こ こ ろ を も      し ら ざ る か



デ フ ネ ヲ ヲ ッ ゲ テ      ド ラ ガ ナ ル

け む り を あ ー げ て      ふ ね は ゆ く

二

一

## 一 出 船

五色のテーブル綾と流れ、

行くと送るとさまざまの

心をつなぐ船と陸、

名残もいまだつきざるに、

出船を告げて銅鑼が鳴る。

二 名残のテーブルいつかきれて、

デツキの人の面影も

おぼろに隔つ陸と船、

その心をも知らざるか、

煙をあげて船は行く。







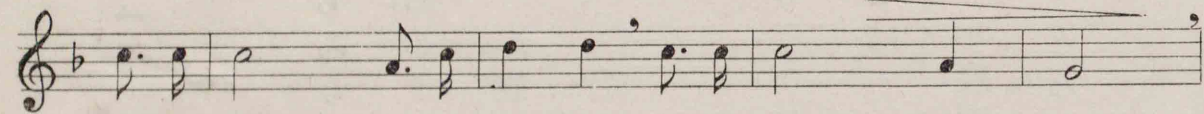
# 飛行船

♩ = 112.  
mf



1. ヒカリ ミナギルソラノウーミ

2. いつか いちごはぼくたちーも



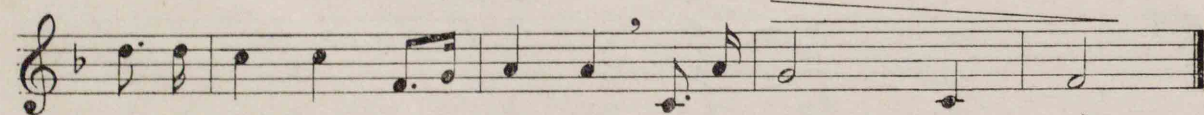
センリニセンリヤスヤスト

おほきなそらのふねにのり



ノリキツテイクヨヒカウーセン

うみをもやまをもしたにみて



アアイサマーシイソラノタビ

せーかいいつしうーしてみたい

## 一三 飛行船

一 光みなぎる 空の海、

千里二千里 やすやすと

乗りきつて行くよ 飛行船、

ああ勇ましい 空の旅。

二 いつか一度は 僕達も、

大きな空の 船に乗り、

海をも山をも 下に見て、

世界一周 して見たい。



# 小 菊

♩ = 132.  
mp

1. カ キ ネ ノ コ ギ ク ト リ ー ド リ ニ  
2. あ き か せ ふ き て し も お け ば

イ ロ ウ ツ ク シ ク サ ク ー ア タ リ  
の ー べ の ち ぐ さ は い ろ ー あ せ て

ケ フ ー モ ム レ ー ト ブ ア カ ト ン ボ  
ひ と り か き ー ね に さ き の こ る

mf

コ ハ ル ビ ヨ ー リ ノ ウ ラ ラ カ サ  
ご ぎ く の は ー な の あ い ら し や

## 一四 小 菊

一 垣根の小菊 とりどりに、

色うつくしく 咲くあたり、

けふもむれ飛ぶ 赤とんぼ。

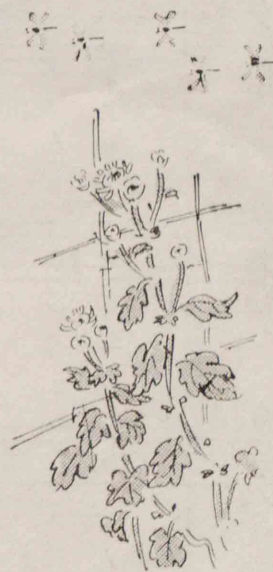
小春日和の うららかさ。

二 秋風吹きて 霜置けば、

野邊の千草は 色あせて、

ひとり垣根に 咲きのこる

小菊の花の 愛らしや。





# 羽衣

♩ = 112.

*p*

1. ミ ホ ノ マ ツ バ ラ ア サ ガ ス ミ  
 2. か へ し た ま へ や そ れ な く ば  
 3. ミ ホ ノ マ ツ バ ラ ア サ ガ ス ミ

*p*

マ - ツ ノ コ エ ダ ニ テ ン ニ ン ノ  
 て - ん へ か へ れ ぬ か な し さ よ  
 ア サ ヒ ニ ヒ - カ ル テ ン ニ ン ノ

*mf*

ワ ス レ テ ユ - キ シ マ ヒ - ゴ - ロ モ  
 か - へ し まう - さ ん お わ - か - れ に  
 マ - ヒ ノ コ ロ モ ハ ラ - ヒ - ラ ト

*f* *mf*

テ - ニ ト リ テ ミ ル レ フ - シ ア リ  
 て ん に よ の ま - ひ を み せ - た ま へ  
 ク - モ ノ カ ナ タ ニ キ エ - ニ ケ リ



## 一五 羽衣

一 三保の松原 朝がすみ、

松の小枝に 天人の

忘れてゆきし 舞衣、

手にとりて見る 漁夫あり。

二 かへしたまへや、それなくば

天へかへれぬ かなしさを。

かへし申さん、お別に

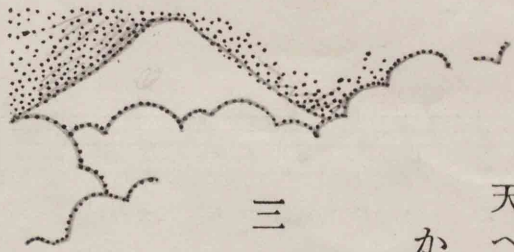
天女の舞を 見せたまへ。

三 三保の松原 朝がすみ、

朝日にひかる 天人の

舞のころもは、ひらひらと

雲のあなたに 消えにけり。





# スキー

*mf* ♩ = 88.

1. フ リ ッ ム ユ キ ハ      ア サ ヒ ニ ヒ カ リ  
 2. ふ り つ む ゆ き に      こ こ ろ は を ど る

ヤ マ ノ ハ ザ マ ノ コ コ ロ ヨ サ  
 あ さ の あ ら し の こ こ ろ よ さ

*mp*  
 ス ベ ル      ス ベ ル      タ ニ マ ラ コ エ テ  
 す べ る      す べ る      や ま ま た や ま を

*mf*  
 ワ レ ラ ノ ス キ      ハ ト ン デ ユ ク  
 つ ば め の や う      に ど ん で ゆ く



一六 スキ一

一 降積む雪は

朝日に光り、

山のはざまの

こころよさ。

滑る、滑る、谷間をこえて、

われらのスキーは 飛んでゆく。

二 降積む雪に 心はをどる、

朝の嵐の ころよさ。

滑る、滑る、山また山を、

燕の やうに 飛んでゆく。



# 母のなさけ

♩ = 84.  
mf

1 ナニニータトヘン ハハノミ ナサーケ  
2 なににーたどへん ははのーみ なさーけ

ヲサナーキ トキヨリ スコーヤカーナレト  
みひざーを はなれて あそびてーかへる

mp

アメニモカゼニモ ミココロクダキ  
あしたにゆふーべにかごべにたちて

mf

ソダテータマヘル コノワガミ  
われをーまたるる みすーがたよ

f

ア アタフト シーヤ ハハノミ ナサーケ  
あ あたふーどしーや ははのーみ なさけ

## 一七 母のなさけ

何にたとへん、母のみなさけ。  
幼き時より すこやかなれと、  
雨にも風にも御心ください、  
育てたまへる此のわが身。

ああ尊しや、母の御情。

二 何にたとへん、母のみなさけ。

御膝をはなれて遊びて歸る

朝に夕に門邊にたちて、

我を待たるる御姿よ。

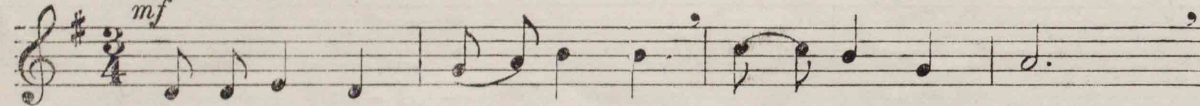
ああ尊しや、母の御情。



# 扇のまと

♩ = 108.

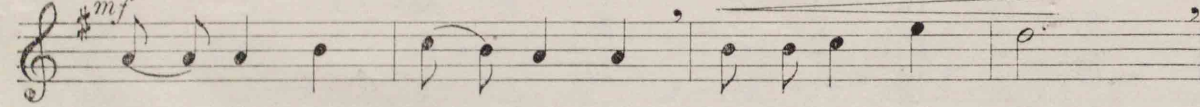
*mf*



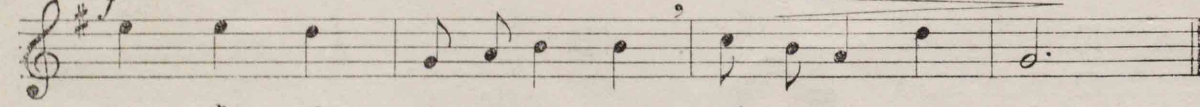
1. ヤ シ マ ノ ウ ラ ノ ユ フ グ レ ニ  
 2. な み ま に こ ま を う ち い れ て  
 3. ナ ス ノ ヨ イ チ ノ コ ノ ホ マ レ



タ ダ ヨ フ フ ネ ノ ー サ キ タ カ ク  
 ユー み や は ち ま ん ね ン じ ド つ つ  
 テ キ モ ミ カ タ モ イ チ ド キ ニ



タ テ シ ア フ ー ギ フ イ ヌ カ ズ バ  
 は な て る や こ そ ー あ や ま た ず エ  
 オ ボ エ ズ ア ー ゲ シ ト キ ノ コ エ



イ キ テ カ ヘ ラ ヌ ブ シ ノ イ チ  
 い た る あ ふ ー ぎ の う れ し さ り ち  
 シ シ ハ ナ ー リ モ ヤ マ ザ リ キ

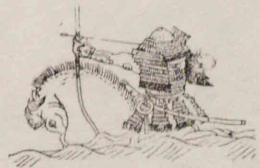
## 一 八扇のまと

一 屋島の浦の夕暮に、

漂ふ舟の舳高く

立てし扇を 射ぬかずば、

生きてかへらぬ 武士の意地。



二 波間に、駒をうち入れて

弓矢八幡 念じつつ、

放てる矢こそ あやまたず

射たる扇の うれしさよ。

三 那須餘一の このほまれ

敵も味方も 一どきに

覺えずあげし 喊の聲、

しばしは鳴も やまざりき。





# 銀の笛

♩ = 120.  
mp

1. ビイ ビイ ナ ル ノ ハ ナ シ ノ フ エ  
2. ゆふ べの ゆー め に み た で せう ー

ト ホ イ オ ヤ マ ノ ギ シ ノ フ エ  
に こ に こ 忍 が ほ の お ぢ い さ ん

mf

ギ シ ノ オ フ エ ハ ダ レ ガ フ ク  
け ふ ー も ゆー め で み た い な ら

mp

シ ロ イ オ ヒ ゲ ノ オ デ イ サ シ  
ねん ねん お や す み ねん こ ろ り

## 一九 銀の笛



一 びいびい鳴るのは なんの笛、

遠いお山の 銀の笛。

銀のお笛は 誰が吹く、

白いおひげの おぢいさん。

二 ゆふべの夢に 見たでせう、

にこにこ笑顔の お爺さん。

今日も夢で 見たいなら、

ねんねんおやすみ、ねんころり。



# 鬼ごと遊

♩ = 100.  
mp

ヂヤン ケン ボン ヨ オニゴツコ シマセウ  
オニハハ ヒロイ オソラハ タカイ  
mf  
ヂヤン ケン ダレガ オニデスカ  
f  
ヂヤン ケン ソレデハ ワタシガ オニヨ  
ワタシガ オヘバ ミンナガ ニゲル

コン ドノ オニハ ダレデセウ  
こんどの鬼は 誰でせう。  
私が 追へば みんなが 逃げる、  
ヂヤン ケン それでは 私が鬼よ。  
ヂヤン ケン 誰が 鬼ですか、  
お庭は広い、お空は高い。  
鬼ごっこ しませう。  
ヂヤン ケン ボン よ、

二〇 鬼ごと遊



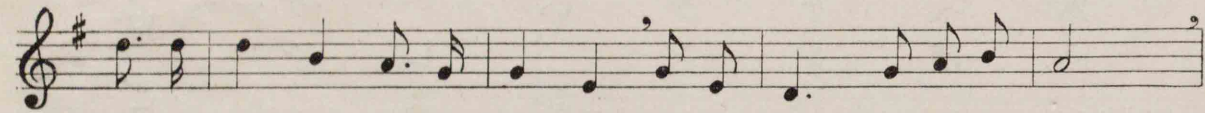
# 師の恩

♩ = 84.



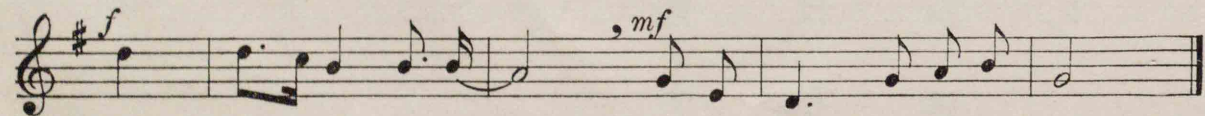
1. アツサモサムサモワスレタマヒテ

2. まなびのそのふにみをしへまもり



クルヒモクルヒモワレラノタメニ

あけくれひたすらわざをはげみて



ヲシヘタマフワガシノココロ

めぐみふかきわがしにこたへん

# 二 師の恩

一 暑さも 寒さも

忘れたまひて、

来る日も来る日も

我等のために、

教へ給ふ

我が師のこころ。

二 學の園生に

み教まもり、

あけくれ ひたすら

業を勵みて、

恵 深き

我が師に こたへん。



# 卒業生を送る歌

♩ = 104.  
mp

1. ハ ナ サ ク ア シ - タ ツ キ ノ ユ フ - ベ  
2. む と せ の な が - き は る あ き す ぎ

シ タ シ ミ カ ハ シ シ ワ レ ラ ノ ト モ  
ま な び の そ の - の み の り ふ か し

mf

イ マ - ズ ワ カ レ ノ ト キ ト ナ リ テ  
い ま - ぞ う た は ん わ か れ の う た

pp

ヲ シ - ム ナ ミ ダ ニ キ ミ ヲ オ ク ラ ン  
す こ や か な れ - よ い ぎ - さ ら ば

## 二三 卒業生を送る歌

一 花咲く朝、月のゆふべ、

したしみ交しし我等の友、

いまぞ 別れの時となりて。

惜しむ涙に 君を送らん。

二 六年のながき 春秋すぎ、

學の園の 實ふかし。

いまぞ 歌はん 別れの歌、

すこやかなれよ いざさらば。





一人中く...  
 小川千里  
 京都府京橋区  
 本校所...  
 振替東京...  
 昭和七年...  
 昭和八年...  
 昭和八年...

田川千里

昭和七年十二月廿五日 印  
 昭和七年十二月三十日 發  
 昭和八年八月二十日 訂正再版印刷  
 昭和八年八月廿五日 訂正再版發行

定價 拾貳錢

日本音樂研究會  
 著作權者 代表者 三木佐助

發行兼印刷者 三木佐助  
 大阪市東區北久寶寺町四丁目四十五番地

發行所 合名會社 大阪開成館  
 大阪市東區北久寶寺町四丁目四十四番地



發賣所 三木樂器店

大阪市北久寶寺町心齋橋筋角  
 振替口座大阪七九番  
 東京市日本橋區吳服橋二ノ五  
 振替口座東京二三七一番  
 林平書店





広島大学図書

0130449415

